

労働図書館新着情報

今月の図書紹介

<p>①ライアン・エイヴェント著『デジタルエコノミーはいかにして道を誤るか』東洋経済新報社 (xi+345+17頁, 四六判)</p> <p>英誌『エコノミスト』の気鋭のジャーナリストが21世紀の働き方、政治、富の分配などについて大胆に見通した意欲作。デジタル革命による3つのトレンド—自動化、グローバル化、スキルの高い少数の労働者の生産性向上により、全世界的には本格的に労働力余剰の時代がやってくる。本書はデジタル化で人類にバラ色の明日が保証されているわけではなく、新たな問題が発生すると警鐘。デジタル化で人間の労働は二極化し、低スキルの仕事の奪い合いが激しくなる一方で、好況になっても賃金が上がりにくい社会になるとみる。著者は余剰となった労働者を救うため、改めて最低賃金の意義の見直し及びベーシックインカム(最低生活保障)の導入必要性にも言及する。</p>	<p>③中村東吾著『誰が「働き方改革」を邪魔するのか』光文社 (237頁, 新書判)</p> <p>本書は、今後の日本経済を担う「頑張りたくても頑張れない人」に焦点を当てる。何が頑張れない労働者を生み出す原因なのか。一つには社内の行動規範としての「社会人の一般常識」、二つ目には労働者に対する社内の罰則などの「心に潜む制動力」があると指摘。例えば、仕事は労働時間の長短で成果が決まるわけではなく、(育児や介護で)早帰りする労働者を「仕事をしない人」と決めつけるのは不合理だとする。少子高齢化が進む日本社会では、女性や高齢者、障害者、LGBT(性的少数者)、外国人労働者といったいまままで「非主流」だった労働者の活用が働き方改革の本丸になるという。こうした層がいかに活躍できるかが、労働の多様化戦略の行方を左右すると主張する。</p>
<p>②笹山尚人著『ブラック職場』光文社 (241頁, 新書判)</p> <p>2015年に大手広告代理店、電通で発生した新入社員自死事件。著者はこの事件を「第三電通事件」と命名する。すでに過去に同種の事件が2回発生しているのがその理由だ。どうしてこうした事態が繰り返されてしまうのか。本書は、日本の職場が21世紀に入って労働者をより冷遇する「ブラック職場」へと転換しているようにみえると指摘。非正規雇用の労働者が増え、労働条件の劣悪さに苦しむ事例、裁判に訴えても声が届かない例は数多い。パワハラをはじめとしたさまざまなハラスメントも横行している。これらの状況を解決するため、労働法を改めて活用するよう訴える一方、労働組合を通じて成果をあげるなどホワイトな社会の実現に向けた具体的な5つの解決策を示す。</p>	<p>④野口悠紀雄著『仮想通貨革命で働き方が変わる』ダイヤモンド社 (263頁, 四六判)</p> <p>著者は、政府の「働き方改革」に関し、労働者個人が従来のように、組織内で働くことを前提にしている点を疑問視する一方、IT(情報技術)の進展で、さまざまな形の働き方が可能になっていると指摘。なかでも組織に雇われない新しい働き方、「フリーランシング」を求めている人が現れている点を重視する。インターネットの進歩などで個人が組織と対等の立場で仕事ができるようになったと強調。さらにビットコインなどの仮想通貨を利用すれば、これまでの個人事業での最大の難所だった送金、課金の問題を解決できるという。こうした変化により、フリーランサーという働き方が拡大すれば、自営業の世界に回帰するとみる。後半では働き方改革に関する持論を展開。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

主な受け入れ図書

(2017年12—2018年1月労働図書館受け入れ)

⑥隅田貫著『仕事の「生産性」はドイツ人に学べ』KADOKAWA(222頁, 四六判)	⑩五十嵐充他共著『中国労働法事件ファイル』日本法令(377頁, A5判)
⑦石井まこと他編『地方に生きる若者たち』旬報社(323頁, A5判)	⑪川口大司編『日本の労働市場：経済学者の視点』有斐閣(xiv+415頁, A5判)
⑧宮本太郎編著『転げ落ちない社会』勁草書房(xii+362頁, 四六判)	⑫山口一男著『働き方の男女不平等：理論と実証分析』日本経済新聞出版社(269頁, A5判)
⑨鎌田耕一著『概説労働市場法』三省堂(xi+208頁, A5判)	⑬池田浩編著『産業と組織の心理学』サイエンス社(ix+249頁, A5判)
⑩須藤典明他編『労働事件事実認定重要判決50選』立花書房(17+586頁, A5判)	⑭旦まゆみ著『自立へのキャリアデザイン』ナカニシヤ出版(vi+94頁, B5判)

労働図書館 <http://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書138,404冊、洋書44,325冊、和洋の製本雑誌25,759冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(266種)、洋雑誌(142種)、紀要(507種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地：〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23
 開館時間：9:30～17:00
 休館日：土曜日・日曜日・国民の祝日・年末年始(12月28日～1月4日)、その他
 電話番号：03(5991)5032 / FAX：03(5991)5659
 利用資格：どなたでもご自由にご利用できます

貸出：和書・洋書とも2週間、5冊までです
 ※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください
 レファレンス・サービス：図書資料の所在調査などのサービスを行っています

